

編集後記

●東日本大震災では、本機構の職員が調査や復旧活動に活躍しました。そこで今回は、被災地の公共用水域で公衆衛生被害が発生していないかの現状調査をはじめ、東日本大震災を契機に見直されている下水処理における省エネルギー化を目的とした技術についてまとめるとともに、液状化被害について安田進・東京電機大学教授の本機構で行われたサロンの概要を紹介する特集を企画いたしました。

●メッセージをお願いしたのは中林一樹・明治大学政治経済学研究科教授。中林教授は、「東北の災害復興から国土の事前復興へ」と題し、被災地の災害復興を急ぐとともに、首都直下地震や東海・東南海・南海地震に対する事前復興を急がねばならないとし、原子力発電所や火力発電所の津波対策の絶対強化に加え、上下水道の機能確保の事前復興も喫緊の課題である——としています。

●「MBR技術の現状と展望」をテーマに山本和夫・東京大学教授が下水道新技術セミナーで行った基調講演の内容を編集して掲載しました。現在、日本と海外で実施されている様々なMBRの研究について紹介されています。

●エンジニアリングレポートは「プラスチック製雨水地下貯留浸透施設に関する共同研究」。プラスチック製雨水地下貯留浸透施設は浸水対策の一手法としてその施工件数が著しく増加していますが、長期物性評価や強度の評価手法も確立していない状況です。このため、技術の確立を目的として、民間と共

同研究を行い技術マニュアルをとりまとめました。一方、新研究テーマは「鋼板製消化タンクに関する共同研究」として、今後重要性が高まるとみられる同タンクに関する実証実験を実施し、技術的知見をとりまとめています。

●ワールドワイド下水道は「マニラ首都圏下水道事業、太平洋島嶼国プロジェクト」および「中国における汚泥減容化・資源化の展開」。最新の海外プロジェクトの取り組みや課題、今後の展望などについてまとめられています。

●ユーザーレポートでは、次世代型マンホールふたおよび上部壁を取り上げました。下水道管きよの延伸に伴いマンホールの数も増加していますが、設置環境はより苛酷なものとなっています。そこで、平成21年4月からこの次世代型マンホールふたを導入している熊本市上下水道局を訪れ、導入までの経緯や現在の状況について伺いました。

●東日本大震災は、今までわれわれが当たり前に使っていた電気やエネルギーの概念を根本から揺るがせました。そのようななか、今回のトピックスでは地域特性を活かし、風力を利用した省エネルギー型下水道システムを導入した富山県・入善浄化センターを紹介しました。同センターでは、風力発電システムを場内のすべての電力を賄うとともに、余剰電力を売電しています。地球温暖化やエネルギー問題へ向けた取り組みとして注目されています。

(編集委員一同)

表紙の 写真



次世代に向けた新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、子供の写真を表紙写真のシリーズとして紹介しています。

写真のお子さん、熊本市上下水道局下水道部下水道建設課の杉村洋輔さんの長女・麻衣（まい）ちゃん、0才8カ月です。最近になって少しハイハイができるようになり、大好きなおもちゃやおいしそうなお菓子を見つけると、それを目指してハイハイで進んでいくんだそうです。花が咲いたような笑顔が、本当に愛らしいですね。

下水道機構情報

Vol. 5 No. 15
2011年7月

平成23年7月25日発行 発行者 石川 忠 男
編集者 江 藤 隆

編集委員：神原 浩／井上 茂治／永橋 尚男／
松葉 秀樹／竹内 徹也／南 政慶／深尾 俊示

発行所 財団法人 下水道新技術推進機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512